

埼玉県立
歴史と民俗の博物館



彩の国埼玉県

THE A MUSEUM

Vol.5-1 第13号 2010.7.7

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

企画展

「ヒーロー参上」

会期

平成22年
7月17日[土]~8月31日[火]

- ◆休館日 7月26日・8月2日・9日・16日・23日・30日
- ◆観覧時間 9時から17時まで(観覧受付は16時30分まで)
- ◆観覧料 一般 400円、高校・大学生 200円
中学生以下と65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は無料

夏休み特別企画「甦れ!懐かしのヒーロー」映画会

●開催日時	●上映時間(※日とも)
8/10(土) 陸奥朝士シリーズ	[午前の部] 10:30~12:00
8/11(水) 光造エスパーシリーズレットンパロン	[午後の部] 13:30~15:00
8/12(木) 月光族 超アイアンキングシルバー族前	●会場 歴史と民俗の博物館 講堂

3日間連続!

主催/埼玉県立歴史と民俗の博物館
協力/株式会社 宣弘社、有限会社 アルバトロス・ジャパン
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219
TEL.048-646-8171 FAX.048-640-1984

(1) はじめに

一口にヒーローと申しましても、さまざまなイメージを持たれると思います。歴史上の実在の人物、マンガやアニメに登場するヒーロー、スポーツ選手や冒険家など、まだまだ読者のみなさんが考えるヒーローが数多く存在するのだと思います。

本展では、第1部として、歴史上のヒーローを錦絵にしきゑなどで紹介します。そこでは、現在私たちが抱くヒーロー感とは異なる、江戸時代や明治時代の人々が抱くヒーロー像がうかがい知れます。第2部では、昭和30年代からはじまるテレビヒーローをフィギュア・写真パネル等で紹介します。マスメディア時代の到来が数多くのヒーローを輩出し、育ててきた過程がうかがわれます。

ヒーロー像には、時代の世相が色濃く反映されています。皆様が、当時の懐かしく頼もしかったヒーローたちが活躍した「あの頃」へと誘われ、夏休みのひと時を過ごせるような展示です。

(2) 歴史上のヒーロー

江戸時代後期の文化九年（1812年）に勝川春亭かつかわしゅんていによって描かれた「源義経」（写真）は、江戸時代の人々が考えるヒーロー像のひとつです。義経は当館所蔵の「源平合戦図屏風」げんぺいかっせんずびょうぶ（期間中のうち半期展示）にも登場します。仮にヒーロー度という尺度があれば、かなり高い数値になることで



武者絵「源義経」（当館蔵）

しょう。「一の谷合戦図屏風」いち たにかっせんずびょうぶには埼玉県が生んだ歴史上のヒーロー、熊谷直実くまがいのさねが描かれています。

江戸時代のスポーツヒーローといえばお相撲さんです。当館には多くの相撲錦絵が所蔵されています。その中でも、埼玉県が生んだおらが国のお相撲さんを中心に錦絵で紹介します。

(3) 昭和のヒーローたち

昭和28年（1953年）、NHKによって本格的なテレビ放送が開始されました。テレビは大変高価なものであり、経済的成長の途上であった日本では、いわゆる街頭テレビの時代が続きました。その頃の主な番組は、大相撲、プロレス、プロ野球などのスポーツ中継や、記録映画などでした。

本格的なテレビ放送が始まって5年、昭和33（1958年）に月光仮面げっこうかめんは始まりました。テレビヒーローの最初は、宣弘社プロダクションが制作したこの月光仮面だったのです。昭和34年（1959年）までに全5部、都合130回に渡り、KRTV（現TBSテレビ）系で放映されました。「どこの誰かは知らないけれど、誰もがみんな知っている」という有名なフレーズに乗って登場する月光仮面は、瞬く間にスーパーアイドルとなって、当時のこともたちを魅了しました。放送時間帯に銭湯から子どもたちが消えたといわれるほどの人気だったそうです。月光仮面が先駆となって、続々とテレビヒーローたちが誕生していきます。

日本における本格的なアニメ番組は、1963年の「鉄腕アトム」に始まります。同年に「鉄人28号」や「エイトマン」も始まります。残念ながらこれらのヒーローに関する資料は展示されていませんが1960年代には、百花繚乱ひゃっかりょうらんの趣を呈するようになります。

今回の展示は宣弘社のキャラクターが中心ですので、残念ながらウルトラマンの展示はありません。ですがヒーローを語るうえでウルトラマンに触れないわけにはいかないでしょう。ウルトラシリーズの記念すべき第一作目が円谷プロプロダクション制作のウルトラQです。製作は昭和41年（1966年）です。次いで、テレビヒーロー史に数々

ヒーロー 参上 企画展



二丁拳銃の月光仮面 ©川内康範/宣弘社

の金字塔を打ち立てるウルトラマンが、昭和41年(1966年)～昭和42年まで放送されました。

光速エスパーは、昭和42年(1967年)～昭和43年まで日本テレビ系で放送されました。三ツ木清隆^{みつきよ}さん演じる主人公の東ヒカル少年が普通の一般少年でありながら、危機的な場面には光速エスパーとなって活躍することが、当時の小学生たちの憧れとなり、共感を呼びました。当時の小学生たちは「物体が光速で飛べるのか?」という命題を真剣に議論していました。写真パネルとフィギュアで紹介します。

1970年代に入り、テレビヒーローは成熟期を迎えるように思われます。「シルバー仮面」は、昭和46年(1971年)から昭和47年まで放映された特撮を駆使した番組です。シルバー仮面をはじめ、今回の展示では怪獣フィギュアが充実しています。しかもその怪獣フィギュアは実に精巧にできています。インバルス星人、ジュリー星人、シャイン星人、ピューマ星人などです。

ベム5号と呼ばれる光子ロケットの模型も展示します。シルバー仮面に登場する高性能ロケット

です。ミサイルやレーザー砲を備え、シルバー仮面を側面から援護しました。

ほかにアイアンキング〔昭和47年(1972年)～昭和48年まで放送〕やレッドバロン〔昭和47年(1973年)～昭和48年まで放送〕なども登場します。

また、特別企画としてこれまであげたヒーローのDVDを一挙上演します。詳細は以下のとおりです。多数のご来館をお待ちしております。

(特別展示担当 伴瀬宗一)

関連事業

(1) 夏休み特別企画

「甦れ!懐かしのヒーロー」連続映画会

開催日時

8月10日(火) 隠密剣士シリーズ

8月11日(水) 光速エスパーシリーズ・
レッドバロン

8月12日(木) 月光仮面・アイアンキング・
シルバー仮面

上映時間(各日とも)

午前の部 10:30～12:00

午後の部 13:30～15:00

会場 歴史と民俗の博物館 講堂

当日受付 参加費、無料

(2) 展示解説

7月18日(日)、25日(日)、8月8日(日)、
22日(日)、29日(日) 各日曜日14時～



シルバー仮面 ©宣弘社

新収集品展 2008～2009

「新収集品展 2008～2009」が、この6月22日(火)～8月29日(日)に当館の季節展示室にて開催しております。ここでは、この「新収集品展 2008～2009」について御案内いたします。

埼玉県立歴史と民俗の博物館は「常設展」、「特別展」、「ゆめ・体験ひろば」など様々な企画を通して国内外の多くのお客様に御利用していただいております。

ところで、博物館のもつ大きな仕事の一つに「資料の収集・保管」があります。これは、私たちの世代だけではなく後世まで資料を引き継いでいくという博物館のもつ重要な使命であり、皆様に御活用していただく博物館のすべての活動の基盤となっている仕事です。

当館では、次世代への継承を目的として、昭和46年(1971)の「埼玉県立博物館」の開館以来、県民共有の文化遺産である埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管して参りました。平成18年に行われた県内の博物館の再編整備により「埼玉県立博物館」と「埼玉県立民俗文化センター」が統合され、「埼玉県立歴史と民俗の博物館」がオープンしてから収蔵資料は12万点を超えるまでになりました。

とりわけ、開館以来300名を超える方々からの寄贈資料は、当館の収蔵資料の中でも重要な部分を占めるようになっております。

収蔵資料の充実に御協力をいただいた方々の御厚意を顕彰するとともに、皆さまへ広く御紹介させていただく場として、当館では新収集品展を開催してまいりました。

今回の展示では、平成20年度から平成21年度にかけて16名の方々から御寄贈していただいた資料と、新たに購入した資料を展示いたします。

平成20年度は、主に貨幣やメダル、掛け時計、ラジオ、レコード、絵葉書やカメラ等の近現代の資料を寄贈していただきました。

また、平成21年度は、県内の生産や信仰に関

する民俗資料である藍作関係資料や富士講関連資料、小絵馬等を寄贈していただきました。

さらに、積極的に収集してきた鯰絵と引札のコレクションも充実いたしました。

このように多くの皆様の御協力をいただいて当館の収蔵資料は充実して参りました。この「新収集品展 2008～2009」を通して、普段皆様の目に触れることの少ない「資料の収集・保管」という博物館の隠れた仕事の一端を御覧いただければ幸いです。

【平成20年度寄贈資料(一部)】



埼玉関係観光絵葉書



どうぞく
銅鍬



ぐんせい きねんぎんばい
郡制紀年銀杯

【平成21年度寄贈資料(一部)】



藍作関係資料



小絵馬



たんとう めい みやもとすがわらかねのりろくじゅうにおう
短刀 銘 宮本菅原包則六十二翁

(資料調査担当 吉田幸一)

友の会 初めての助成金で「五人囃子」イベント



博物館友の会は、花王コミュニティミュージアム・プログラム2009に応募し、全国からの118件の応募の中、助成対象(28件)に選定され、50万円の助成をいただくことができました。

助成対象のプロジェクトは「博物館からキックオフ事業『ワークショップ～五人囃子と語る』」です。

雛人形の五人囃子(太鼓・大鼓・小鼓・笛・謡)は「能の音楽」を演じています。そこに眼をつけたのがこのプロジェクト。

五人囃子を「能楽入門」のキッカケ、雛人形という地場産業(さいたま市岩槻区)を身近に考えるキッカケ、博物館の隣組である大宮氷川神社の薪能を見るキッカケにしてもらおう～そういう、ちょっと切り口の変ったイベントを友の会で行い、「博物館」の注目度をあげ、入館者増にもつなげたいという企画です。

でも、実際に取り組みを始めたときには、みんな不安で一杯でした。なにしろ、講演会や見学会などしか、ほとんど経験がなく、作業などはしたことがない、寄せ集めの団体なのですから。

準備作業の大きなポイントは舞台を構成する90センチ角高さ30センチの箱(いわゆるサイコロ)をつくること、舞台の正面を飾る「老松の絵」作りです。

20個のサイコロは二日がかりの大「大工仕事」で出来上がりました。

そして、「老松の絵」作り(部屋より大きく白

布を縫い合わせ、あちこちの能舞台をみてきて下絵を描き、それを白布に拡大し、色を塗る)も、どんな絵の具を使っていいのかわからない段階からやり始めて、ようやく立派な「老松」が完成しました。

しかし、才能を持った方が友の会には沢山おられたのですね。隠されていた個人の才能、気心もわかって、混成部隊なればこそその素晴らしさが発揮されたのです。

幕があがった当日、博物館にお願いして便乗させて頂いたさいたま市内の小学校5・6年生へのチラシ配布の効果もあって、午前の部の子ども対象プログラムには保護者の方を含め95人のご参加がありました。

能楽師さん、囃子方さんの実演や解説、一番の盛り上がりは楽器にさわって、演奏の仕方を教えてもらえる時間でした。(冒頭写真) ならない笛とか太鼓に悪戦苦闘の場面もありましたが、みなさんに楽しんでいただきました。

午後からの「大人のための能楽入門」プログラムには133人のご参加。

能「高砂」、居囃子「船弁慶」の実演は、能楽入門にはゼイタクすぎるものでありました。

こちらも楽器にふれることのできるの大好評。いろいろな楽器に挑戦されていました。

高尚でとっつきがたいイメージの強い「能」に楽しみながら入門できるチャンスとなったようで、初期の目的は十分達成できたと思われます。

その後のプログラムとしては、座学の「能楽入門」講座は2回のうち1回がすみ、これまで作成したレジュメなどをベースとした「能楽入門本」の刊行が残っていますが、計画どおり実施し、友の会の会員のますますの団結、交流をはかって行きたいと考えています。

ご協力いただいた博物館、岩槻人形組合さん、東玉さん、能楽師・囃子方のみなさん、コーディネーター役の原田紀子さんに心からのお礼を申し上げる次第です。

(友の会会長 宮川 進)